

テーマ「地域住民を巻き込んだ演習への取り組み」－地域の中で育てる－

カテゴリー ④連携(地域・多職種等)



▲学院の位置・外観

1. 学校概要

- ・学校名:北海道立江差高等看護学院
- ・所在地:北海道檜山郡江差町伏木戸町 483
- ・課程名:3年課程 ・1学年定員数:40名 ・就業年限:3年

2. 学校理念

道立看護学院は、北海道の地域医療を担う看護職員の養成を目的として設立された専修学校である。そのなかで本学院は、地域に根ざした看護を実践できる人材を育成し、道内でも看護職員の充足率が低い檜山・渡島・後志・胆振地域の医療・福祉施設等で必要とする質の高い看護職員を供給する役割がある。

3. 内容

地域包括ケアシステム構築の推進に向け、看護職員には多様な場において多職種と協働して看護ケアを提供することが期待されている。一方、近年、子どもや高齢者と関わる機会をほとんど持たない学生も多い。さらに当学院は学生数も少なく、学生同士や教員との演習だけでは、対象に応じた尊重姿勢やコミュニケーションについて、十分な学習効果が得られない状況がある。こうした背景を踏まえ、本学学生の看護実践力向上をはかる上で、地域住民の協力を得た演習に積極的に取り組む必要があると考えた。今回、地域に暮らす住民を巻き込んだ演習として、地域住民の方に模擬患者として参加していただいた。その内容と結果について報告する。

▼演習全体の様子



4. 演習内容

- 1)科目:フィジカルアセスメント
- 2)対象学生:1年生8名
- 3)模擬患者:4名(70~80歳代)
- 4)教員配置:2名
- 5)時期:1月(基礎看護学実習Ⅰの1週間前)
- 6)目標
 - (1)臨場感のある中で安全・安楽にバイタルサイン測定を実施できる。
 - (2)コミュニケーションの基本に留意し、対象を尊重した姿勢・態度をとることができる。
 - (3)対象の反応を捉えながら援助を実施できる。
- 7)内容(90分1コマ)

最初に説明(10分)を行なう。次に、バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)と生活の様子についての問診(50分)を、模擬患者1名に対し学生2名(実施者と観察者)が交代して実施する。その後、リフレクション(30分)を模擬患者2名、学生4名、教員1名の2グループに分かれて実施する。視点は、①「安全・安楽」、②「コミュニケーション」、③「対象の反応を捉えながら実施する」とした。

フィジカルアセスメント授業評価

あなた自身への授業への取り組み	3.7
教員の授業の進め方について	3.8
授業内容の理解について	3.8
授業の全体について	3.8

4(そう思) 3(まあまあそう思) 2(あまりそう思) 1(そう思) 0(全く思)



▲バイタルサイン測定の場面



▲リフレクションの場面

〈リフレクションの主な内容〉

<p>①安全・安楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンシットを巻く際に皮膚が巻き込まれると、痛みを生じる。高齢者は皮膚にたるみが生じやすいため、巻く時は注意する。 ・緊張してしまうようにできず、失敗すると気持ちを立て直せなかった。そのため、血圧測定時の加圧しすぎや、マンシットの外し忘れ、時間がかかるなど苦痛を与えてしまった。手技の未熟さがあるため、練習が必要である。 	<p>●学生の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に協力してもらい、バイタルサイン測定できたのがよかった。 ・緊張したが、模擬患者さんが優しく声をかけてくれ、すぐにほぐれた。 ・実習に行く前に体験できたので、この経験を実習に役立てたい。
<p>②コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な声かけや体調の確認はできたが、世代が異なることで共通の話題が見つけれず、沈黙が長かった。何を話すか事前に準備する必要があることやコミュニケーションの大切さを実感した。 ・専門用語は学生同士では伝わるが、対象には伝わらない。わかりやすいよう表現を言い換える必要がある。 ・正常値ではない時の対応や不安を与えない伝え方に困った。普段の値の把握や、再測定の検討、他に異常がないか確認する必要がある。 	<p>●模擬患者(地域住民)の意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院した時に新人看護師がついたが、その時と変わらなかった。 ・緊張は伝わってこなかった。 ・技術だけではなく会話が課題に感じた。話題を提供すると良い。 ・自信をもって行ったほうが良い。 ・貴重な経験ができた。 ・孫のような存在で可愛く、本当に寝たくて欲しいと思った。 ・もっとたくさんの子が入学し、育ってくれたらと思い、心から応援したいと思った。
<p>③対象の反応を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張や手技に集中し、表情などの観察ができなかった。測定しながらも観察することを意識する。 ・初対面の人の表情の読み取りは難しかった。声のトーンでも体調を確認することや、痛みの有無を聞くことも必要である。 	

5. 評価

模擬患者という臨場感がある中で演習を行うことを通して、対象を尊重し配慮する姿勢や、対象の想定した反応ではなく、その場の反応に合わせて、どのように関わっていくかを考える機会となった。年齢や生活背景の異なる対象との関わりを通して、学生同士や教員との演習では得られない学びを得る有意義な体験になったと考える。また、実施時期が基礎看護学実習Ⅰの開始前だったため、学生の興味・関心も高く、実習準備として自己課題の明確化にも繋がった。この後に行われた基礎看護学実習Ⅰの授業評価も3.8~4.0と高く、「(実習中)模擬患者の演習があって良かった。なかったら、もっと緊張した。」という声が多かった。本取り組みを通して、初めて対面する患者とのコミュニケーションへの不安軽減になったと考える。

本学院では、ハラスメント再発防止策の一環として地域との連携強化を進めてきたが、今回の演習を通して、地域住民の力を借りながら、地域の中で学生を育てていくことの有用性を改めて実感することとなった。今後も学院と地域住民との繋がりを活かした取り組みを活発化していきたい。

本学院では、ハラスメント再発防止策の一環として地域との連携強化を進めてきたが、今回の演習を通して、地域住民の力を借りながら、地域の中で学生を育てていくことの有用性を改めて実感することとなった。今後も学院と地域住民との繋がりを活かした取り組みを活発化していきたい。

1) テーマ：「グループ校9学科との多職種連携演習（MIPs）」

2) カテゴリー：②教育内容（授業・演習）

3) 学校概要：学校名：学校法人 龍澤学館 盛岡医療大学校 看護学科

所在地：岩手県盛岡市大通3-3-26 課程名：3年課程

1学年定員数：40名

修業年数：3年

4) 科目：臨床看護の実践Ⅰ 1単位 30時間 2学年 前期

目標：保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び多職種の役割を理解し、多職種との連携・協働について考える。

5) 内容

- ・人々の暮らしや福祉を取りまく環境は複雑化・多様化しており、「多職種連携」が一層注目されるようになった。グループ校9学科の学生と多職種連携演習(MIPs)を通して、医療関係の多くの職種の内容や役割、自職種と多職種とのつながり関係を理解し、チームで協働する必要性や意義について考える。
- ・医療ケアを必要としている人々だけでなく、家族の介護や世話を担う子ども「ヤングケアラー」、高齢者が住み慣れた地域で生活を望む「地域で暮らす高齢者」、障害者の災害対策「災害時の障害者」、3つの事例のグループワークを行う。多職種の考えや価値観などを知り、複数の専門職で機能させるチームワークの在り方や役割分担について考える。

6) 参加学生（158名・学科混成25グループ編成、各グループ教員2名）

看護学科：29名

歯科衛生士学科：13名

心理福祉学科：7名

社会福祉学科：13名

こども福祉学科：9名

こども未来学科：21名

介護福祉学科：22名

医療事務学科：31名

スポーツ健康学科：13名 *看護学科以外、最終学年が参加



7) 展開

①多職種の役割理解

在宅医療における多職種連携テーマにした映画「ピア まちをつなぐもの」を鑑賞。学生自身が互いに目指している職種の専門性や役割を伝え、多職種理解を深めた。

②グループワーク

医療・福祉の問題事例を1つ取り上げ、それに対して専門的な知識をどのように活用すれば解決できるかを話し合う。話し合いは学生主導で行われ、様々な意見を集約してポスターにまとめる。

方向性を見失ったり、行き詰ったりした場合は、各教員がフォローする。

③プレゼンテーション・フィードバック

グループワークの内容をまとめ、事例に対しての援助方法を発表。

他のグループの視点や見解を聞き、教員からの指導やフィードバックを通して学ぶことができる。発表したポスターは所属校に掲示する。

《実施後、学生からの感想》

- ・多職種連携は「自分の得意を使って苦手を補い合う」ことだと学んだ。
- ・対象者が自分らしく、どう生きるのかを支える「ピア」になりたい。
- ・さまざまな職種が一丸となり「連携」することでチームが1つになる。



1) テーマ かわいい子には旅させろ。かわいい子は旅をしよう！

～瀬戸内・島プロジェクト～

2) カテゴリー ②教育内容

3) 学校概要 学校名：ポラリス保健看護学院 所在地：福島県郡山市向河原町
課程名：統合カリキュラム 定員：各学年 40 名 就業年限：4 年間

当学院では「学生が自己の課題や他者と向き合いながら成長する過程と人間関係づくりを重んじ、人や地域との関わりを通じた豊かな人間性の形成を支援することが何よりも大切である」と教育理念の中で述べている通り、学生自らが企画運営を行う学校行事や宿泊研修を科目外に多く取り入れています。

令和 5 年に入り感染症対策の緩和が国の方針として決定したことが後押しとなり、国内の離島で長期宿泊研修を実施することになり、令和 5 年度 3 月末に 4 泊 5 日で、福島県から遠く離れた瀬戸内の離島で宿泊研修を実施しました。

対象は 4 年に進級するクラスの希望者で 33 名。ミッションは、「クラス全員が、安全で学びが有り楽しめる離島研修を、自分たちで作上げる」というものでした。教員が最初に伝えた内容は、以下の通りです。研修初日と最終日は遠距離の移動日になること、2 日目は施設見学研修として島の基幹病院見学と福祉施設見学という 2 つの要素が決まっている（何をどう学びたいかは学生が相手先に提案する）。3 日目は 1 日間の島内の地区踏査にあてるよう指示し、4 日目はフリーの観光日としました。宿泊先と交通手段の確保は教員が行いましたが、島での生活や感染予防を含めた安全管理等のマネジメントは学生が全て運営するように指導しました。学生の成長を促す取り組みというわけです。

準備期間は約 3 か月間しかない状況でしたが、学生達は必要にせまられ主体的に連携し、準備を勧めました。そしてその結果、大きなトラブルが起こることも無く、離島の暮らしや、保健・医療・福祉について学び、とても有意義な研修が実現したのです。島での最後の夜、頑張った学生への労いを引率教員から伝えるだけでは足りない！ということで、福島県にいる教員達と空間を超えて Zoom でつながり、学生達への教員の思いを伝える場面もありました。

研修中に出会う島の人々の温かな気持ちを多く受け取り、交流し、本当に生き生きと学ぶ様子を教員は目の当たりにし、この研修の経験が学生にもたらしたものの大きさと、学生が元々持っていた自ら成長する力の素晴らしさを実感することができました。

「学校から何百キロも離れた島に行き、島の保健・医療・福祉を自分達で学んで来い！」という無茶振りは、看護学校では中々出来ない事だと思います。しかし「かわいい子には旅させろ。」で、学生の力を信じて、それをやってのける当学院の無茶振り力と、「かわいい子は旅をしよう！」とそれに対応するエネルギーな当学院の学生達が、「学校自慢」です！



〔テーマ〕 「魅力ある学校づくり」

〔カテゴリー〕 ⑤ その他（学生支援の充実） ※一部 ④ 連携（地域・他職種）を含む

〔学校概要〕

- 1 学校名 一般社団法人郡山医師会 郡山看護専門学校
- 2 所在地 福島県郡山市字上亀田14番4号
- 3 課程名 看護学科 2年課程（専門課程） 1学年定員40名／就業年限2年
准看護学科 2年課程（高等課程） 1学年定員80名／就業年限2年

〔取組内容〕

「魅力ある学校」を目指し、令和2年度からの「学生支援」に関する新規事業について報告する。

1 実施の経緯

看護職を目指す者が減少する中、学生に対する学校側の姿勢をこれまでの「教える側」と「教わる側」のような「上下」関係から、学生の想いを受け入れ、支え、見守る「家族」のような関係に変えたいと、学生に対する支援のあり方について多方面から検討を行い実施してきた。

2 実施事業一覧

No.	実施概要	目的	実施年度
1	福祉事業所による校内販売 (お弁当、惣菜、味噌汁、お菓子等/月2回程度)	学校生活環境の向上	令和2年度～
2	助成券(1,000円分)の配布(全学生) ※上記校内販売及び店舗で利用可能	福祉(障がい者等)への理解促進 校内活動における学生助成	
3	自動販売機による販売品の拡充 (パン、菓子、カップ麺、ドリップコーヒー、健康飲料等)	コロナ禍における学内環境向上	
4	受験応援セットの配布(両学科2年生全員)	国家試験・資格試験時学生応援	
5	学期末試験成績優秀者表彰 〔副賞〕QUOカード(5,000～1,000円)	学習意欲向上 及び 生活支援	
6	学校独自の奨学給付金の支給 〔支給額〕年額10万円〔実績〕R3 28名/R4 31名	修業支援	令和3年度～
7	食料品の配布(全学生) ※持ち寄り&企業協賛	生活支援/地域連携(SDGs)	
8	寄附金の募集〔R4実績〕7件/149万円	学生支援事業に係る財源確保	
9	図書室のリニューアル	校内学習環境の向上	令和4年度
10	授業料等の減免 ※高等教育の修学支援新制度確認校申請及び認定	修学支援 (経済的理由による修学断念防止)	令和5年度～
11	その他(学生提案の制度化、学生アンケートの実施、 学校通信の発行、病院奨学金案内小冊子の作成・配布、 傘貸出、国民年金特例申請受付等)	学生意見の聴取・反映 情報発信(地域理解促進) 学生生活の利便性向上・負担軽減	令和2年度～

《学生・教職員の感想》 修業継続にあたり純粋に助かる(奨学給付金、授業料等減免など)/学校が明るくなった(校内販売、自販機、新しい図書室など)/何より嬉しい(受験応援、食料品の配布、助成券など)



左から、1 校内販売、3 自販機拡充、4 受験応援セット配布、7 食良品配布、9 図書室リニューアル

テーマ「基礎看護学実習Ⅰ～地域の様々な場での看護活動から看護を考える～」

応募カテゴリー：②教育内容（実習）、学校概要：いわき市医療センター看護専門学校

福島県いわき市内郷御厩町3丁目91番地の1、課程名：3年課程、1学年定員：40名 就業年限：3年

内容

基礎看護学実習Ⅰ（看護の役割と機能）：初めて看護に触れる基礎看護学Ⅰ実習を地域の様々な場の看護活動の見学から看護の役割を見いだす事ができる実習としている。

単位数：1年次 1単位 45時間 実習時期：6月下旬～7月初旬

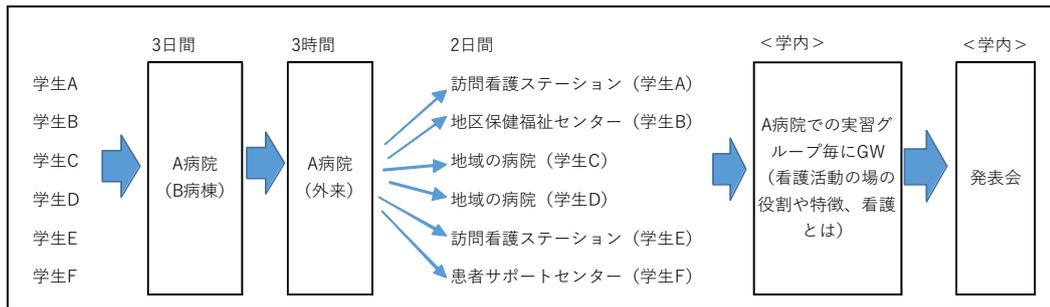
目的：看護の基本となる概念を踏まえて、看護の役割と機能を理解する。

実習場所・方法：A病院（急性期）での病棟実習（3日）と外来実習（3時間）は全学生、地域での実習（2日）は地域の亜急性期・回復期・リハビリ病棟を有している病院（24名）、訪問看護ステーション（8名）、地区保健福祉センター（6名）、A病院の患者サポートセンター（2名）に分かれて見学実習を行う。

実習内容：①看護活動の場・利用者の特徴・看護師の役割についてオリエンテーションを受ける。

②看護師とともに行動し、行われている看護を見学する。

③実習終了後、学内でまとめ学習をする。A病院以外の実習は全員が同じ経験をするわけではないため、学んだことをグループで共有し、その後クラス全体で発表会を行う。

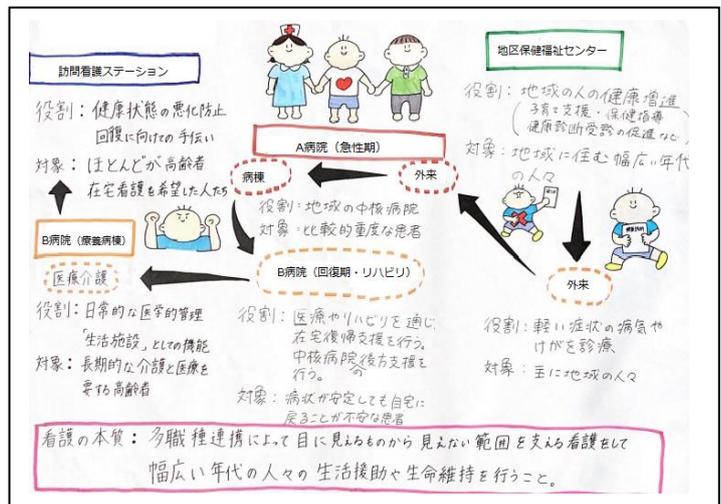


～学生の実習記録や発表から～ *学生に同意を得て掲載（一部抜粋）

- ・利用者は生活者だった。その人の暮らしと暮らしを支える家族に密接に関わっていくのが訪問看護だった。自宅に訪問するので利用者は自身のテリトリーに入られることに抵抗を感じる方もいる。そのことを理解し、訪問マナーを徹底することや、誠心誠意取り組む大切さを学んだ。
- ・患者さんの特徴に合わせて、長期的な医療と介護を必要とする高齢者を対象に生活施設として機能を持つ介護医療院、地域包括ケア病棟、療養病棟等各々の病院で様々な病棟があった。どちらでも、患者さんの生活を意識した看護が行われていた。患者さんが季節を感じたり、楽しくなるような工夫がされていた。
- ・リモート実態調査の見学があった。患者さんがこれからどのような生活をしたいと思っているのか、早く生活になじむためにはどうすればよいのかなど話し合っている姿を見て、患者さんを第一に考え、その人がその人らしく生きていけるように思う気持ちは場や職種が違ってても一緒なのだ感じた。助け合うことで看護が成り立っていることが分かった。
- ・地域に住む全ての方を対象に支援が行われており、すべての人が安全・安心に暮らせるように「暮らしをまもる看護」をするのが役割だと学んだ。地域での支援と病院での支援は繋がっていた。
- ・看護活動の場が違ってても看護の本質は同じであることに気が付いた。対象の日々の暮らしや退院後の暮らしがその人らしく過ごせるように、できないことはできるように、できることは更にできるように、そして、できていたことができなくならないように援助する。患者に一番近い看護師はこれらを果たす役割と責任がある。
- ・相談への対応では対象者の表情や何を相談したいのかアンテナを立てて観察しながら対応しており相手が本当に相談したいことを相談できるように配慮していた。この点については病院で行われている看護と同様であると感じた。
- ・看護業務が多忙であること、それを淡々と行う看護師の姿に圧倒された。患者の数だけ看護提供の仕方があり、その人らしい生き方ができるように臨機応変に援助を行う看護師は光輝いており憧れを抱いた。

～まとめ～

実習開始前は、看護を学び始めたばかりの1年生を様々な看護活動の場で実習させることに不安があったが、どの実習場も1年生を温かく迎え入れて下さり、学生は教員が予想していた以上の学びを得ることができた。今後も地域の看護師の皆さまの力をお借りし、地域という大きい枠組みの中で看護を考えることができる看護師の育成を目指し取り組んでいきたい。



テーマ：「地区踏査を取り入れた地域の暮らしを理解するための授業の工夫」

カテゴリー：③教育方法（授業）

学校概要：学校名：いわき市医療センター看護専門学校 所在地：福島県いわき市内郷御厩町三丁目 91 番地の 1

課程名：3 年課程 1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年

内容：

本校が立地するいわき市は広大な面積をもつまちで、東側は太平洋に面し西側は阿武隈高地の山間部であり、地域により環境や高齢化率、暮らしぶりなどの違いに大きい特徴がある。

1 年次 4 月より開始する地域・在宅看護論「いわき市の暮らし」の科目では、地域の環境、環境と生活のつながり、地域に暮らす人と暮らしの理解を目的に地区踏査を行っている。暮らしは人それぞれ住んでいる地域特性に大きく影響することから、地域特性の異なるいわき市内の 10 か所に分かれ地区踏査を実施している。学生は実際に地域を歩き回り、地域特有の雰囲気を感じながら、住民が生活している住居や街並み、暮らしぶりなどの情報を収集する。また、区長や民生委員に協力をいただき、学生は地域の方との交流から地域の環境と暮らしやすさ、地域での支え合い活動についてインタビューを行い学びを深めている。具体的な地区踏査の内容は、表 1 の通りである。

表 1 地区踏査の内容

	テーマ	内容
1	地域のデータ収集 (2 時間)	・学生は 10 か所に分かれ、地域特性を知るためのデータ収集項目を挙げ調べる。 ・把握できなかった内容を整理し、地区踏査時に調べる内容を明らかにする。
2	地区踏査 1 回目 (4 時間)	・地域の環境、環境と生活のつながりの理解を目標に活動する。 ・地区踏査を実施し、得られた情報、感じたことなどを記録する。
3	1 回目活動まとめ (2 時間)	・地域特性についてわかったことや生活のイメージ、感想をメンバーで共有する。 ・2 回目の活動で把握したい情報、地域の方へのインタビュー項目を考える。
4	地区踏査 2 回目 (4 時間)	・地域に暮らす人と暮らしの理解、地域での支え合いの理解を目標に活動する。 ・地域の方へのインタビューから得られた、地域の環境と暮らしやすさ、健康に関することなど学んだことを記録する。
5	地区踏査まとめ (3 時間)	・2 回の活動から見てきた地域特性や暮らし、環境と生活のつながりなどを模造紙にまとめる。
6	発表 (4 時間)	・市内 10 か所の地区の発表から、地域特性の違いを理解し、その特性の違いが人々の暮らしや健康にどう影響するのか自分なりに考える。

<学生の学び> (一部抜粋)

- ・商業施設が多く便利な地区だと思っていたが、交通の便が良くないことに気づいた。高齢者の「買い物難民」が増えていることが理解できた。
- ・高齢者の中にはごみの管理ができず、家中ごみだらけになってしまう方がいると知った。そういう方の手助けを私たち学生ができればいいと思った。
- ・大きな病院の受診は、交通手段の少なさから行くのが大変な上に、一人暮らしの高齢者の方は頼れる人がいなく不安が大きいと思った。
- ・火災、地震や水害などの災害などがあつた時、高齢者だけでは対応できないことも沢山あると思った。地域の支え合いが大事だと改めて感じた。
- ・高齢化が進んでいたが、地域で見守り隊を結成し、住民一人ひとりを孤立させないという意識を持って活動していた。
- ・坂や階段が多く、高齢者は家から出る機会が減ってしまうと思った。
- ・世帯数が少ない地区だからこそ住民の結びつきが強いというメリットがあつた。
- ・地域の高齢者が盛んに活動をしていることを知り驚いた。「自分のことは自分でやりたい」と考える高齢者が多くいることを学び、その人の意思を尊重していくことが大切だと思った。

<教員の所感>

- ・地域特性が違う地域で活動し学びを共有したことは、生活の環境により抱える悩みや問題が異なることに気づくことができた。
- ・1 年次の早期に地区踏査を実施したことで、地域に暮らす人々の看護は看護の土台になると実感できた。

3. 人々の交流の場

・老人むつしの会 } 代表者が区の人達に呼びかけ
 ・おみこし祭り }
 ・enna } 日常的に回覧板を使って交流
 ・隣組 }

4. 交通機関

・競輪場前 ・白土入口 } 計 6 つ
 ・谷川瀬 ・ハコ坂団地入口 } 本数が少ない不便
 ・ヨコタウン谷川瀬 双藤町 }

5. 課題

施設や病院が多く、便利なイメージ → しかし → 買い物難民や孤独死が問題になっている。
 交通機関が充実している高齢者は家族がそばにいる。

飲食店や生活用品などが多く街に出ると便利である。
 しかし、少し離れた場所には坂が多く、バスも少ない。高齢者の生活は厳しいのではないかと感じた。若い人が増え、身元に頼れる人がいること、バスなどが増えることが安心な生活の第一歩

地区踏査のまとめ (一部抜粋)



地区踏査の様子

教科書では学べないお宝いっぱいのお福島看護専門学校

カテゴリー ⑤ その他(教科外活動等)

学校概要 住所:福島看護専門学校 所在地: 福島県福島市栄町 1 番 37 号

課程:3 年課程 1 学年定員:40 名 修業年限:3 年



福島県北部に位置し、福島駅から歩いて 3 分！福島県内はもちろん、宮城県や山形県からの通学も可能です

内容 福看の学生たちは、様々な教科外活動を通して地域の人たちと触れ合い、また学校では主体的にクラブ活動に取り組み校内を花でいっぱいにする事で、癒しの空間づくりをしています。

取り組みその① …地域の中で生き活きと活躍する学生たち 団員は今年 32 名

福看の学生は…福島市消防団 機能別学生団員に発足当初より入団し、火災予防の広報、避難所運営の訓練、消防団員 PR 動画作成に参加などに様々な地域防災活動に貢献し市民の安全を守っています

♥ 福島看護専門学校は、地域に愛され・地域の方々に育てていただける幸せな学校です ♥



福島市総合防災訓練参加

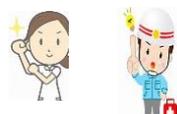
消防士とAEDダンス

仮設テント作成練習

取り組みその②…(学内)市民講座…地域の方々の健康支援 オープンキャンパスに合わせて開催し、学生たちが地域の人たちと触れる機会にしております。

血圧測定体験・手洗い体験・モデル人形を使った体験と見学・健康相談コーナー・車いす体験

高齢者体験・沐浴体験・在宅療養している方への看護体験



(学外)市民広場活動…社会福祉協議会の方々と市内の広場で健康支援活動実施

福看はすごい！



赤ベコ

起き上がり小法師

転んでもすぐ起き上がるよ！

取り組みその③…華道クラブ活動で学校が花でいっぱい…感性が磨かれます

華道クラブの部員数は、27 名(女子学生 14 名+男子学生 13 名)で構成されています。お花に興味がある学生たちが集まって、部長中心に活動しています。学校の勉強や実習で何かと忙しい看護学生ですが、花に触れることで心が癒され、感性が育てられております。生ける時には「花の表情をひとつひとつ見て、どのように生ければその花が活かされるか」「何をテーマにその花を生けるか」など学生と考えながら花と触れ合うひと時を過ごしております。学生の生けたお花は、玄関や廊下など、校内に飾られ在校生そして本校を訪れる方々に癒しを与えています。



テーマ「性教育を通じて自己のライフサイクルを考える」
～ 自分のいのちの大切さを体感し、他者のいのちを守る看護師に～
カテゴリー：①教育課程（教科外活動）

1. 学校概要

学校名：福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院附属高等看護学院
所在地：福島県白河市豊地上弥次郎2番地1 課程名：3年課程
1学年定員数：30名（令和5年4月現在 90名在籍） 修業年限：3年



2. 経緯

現代の社会環境は目まぐるしく変化し、性に関する問題がより複雑・多様化している。とりわけ情報社会の発展は、若者の性意識や性行動に大きな影響を与えている。性に関する健康は、豊かな人生を送るためには欠かせないものであり、それにより性教育は生涯に渡ってなされるべきものである。専門学校や大学、短大は学生にとって社会に出る前の最後の教育機関となりうる可能性が高く、集団で受ける最後の性教育の機会となるかもしれないことを考えると、その担う役割は大きい。

加えて、当学院の教育理念は、設置主体であるJA福島厚生連の理念に基づき「いのちの大切さを基盤に、豊かな人間性と高い倫理観を培い、看護に関する専門的知識及び技術を身に付け、あらゆる健康レベルにある対象に応じた看護を実践し、地域・社会に貢献できる看護師を育成していく」ことである。家族形態や価値観の多様化から様々な社会背景をもって学生達は入学してくる。生育環境によっては、自己肯定感の低さから自己表現が苦手だったり、集団での生活に困難さを感じる学生がいることも事実である。そのため、性教育を通じて避妊や人工妊娠中絶等の実態を知ることのみならず、自分自身のいのちの大切さを体感し、その上で他者のいのちを守る看護師になって欲しいとの願いのもと平成30年度より教科外活動の課外授業として「性教育」を位置づけ実践している。

3. 内容・方法

1) 方法：教科外活動の課外授業として、年1回（夏季休業前7月）、学年ごとに講義・演習

2) 内容：年ごとにテーマを選定（下記、近年3年間のテーマと内容）

- ・令和3年度：「性のこと正しく知っていますか？～正しい知識がいのちを守る～」
性教育の目的/性の知識テスト /性感染症の実践 /今、大切にしなければならないことは
- ・令和4年度：「デートDV～豊かな人間関係を築くためのヒント～」
愛って何 /デートDVとは /いのちの大切さ
- ・令和5年度：「性教育ってなぜ必要？～これからの性教育を考える～」
性教育の必要性 /コンドームの正しい使い方 /明るい性教育

3) 学生の反応（アンケート結果より）及び今後の課題

「いのちの大切さについて理解できた。」「看護師になっても忘れないで仕事をしたい。」「性教育の大切さ、身体の大切さを改めて理解できた。」「子宮頸がんワクチンをしたいと思う。」等の感想があった。概ね性について学び、いのちの大切さを体感することに繋がっていた。

しかし、一方では感想の中で性についてネガティブな感情を持つ学生もいるため、各担当教員と連携を図り精神的支援に繋げていく。また、すべての人に関わる性を領域横断的に教授できるよう教育内容や方法を検討し、様々な場所でいのちを体感できるようにしたいと考える。



テーマ:地域在宅看護論における新たな「地域と暮らし実習」への取り組み

カテゴリー:③教育方法

学校概要:学校名:横浜市病院協会看護専門学校

所在地:神奈川県横浜市港南区港南台 3-3-1 課程名:3年課程 1学年定員数:80名 修業年限:3年

「内容」:「地域・在宅看護論」へとカリキュラムが改正され、施設内での看護に留まらず、これからの社会を支えていくために地域包括ケアをより推進していけるよう、また地域共生社会を実現していける看護師の育成を目指している。

「目標」1年次より地域に出向き、地域を視る要素を理解し、その特徴を把握できる。さらに地域住民と関わり人々の暮らしがどのように行われているのか、人々の暮らしを支える社会資源の実際を学ぶ。

「地域と暮らし実習」を体験する前に次の2つの科目を学習している。

時期	科目	内容
1年次11月	地域の暮らしと看護	・地域の人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解できるよう、地区踏査を実施。 ・コミュニティー作りや、パートナーシップの基本を理解する。 ・地域包括ケアシステムにおける看護の役割を知る。
1年次11月	地域と福祉	・少子高齢化、情報化、グローバル化が進展していく中、暮らしの諸問題は何かを知る。 ・問題を解決し個人の生活を守っていくために、住民と専門職、行政、NPOなど地域における様々な活動主体のつながりや、参加と協働が欠かせないことを理解する。 ・地域社会が変容する中で、地域福祉計画づくりなど新たな地域福祉の創造に向けた手法と具体策を学ぶ。

時期	科目	内容
1年次1月	「地域と暮らし実習」	・様々なライフステージにある人の、地域での生活環境を理解し、暮らしが健康に与える影響を考える。また、地域の人々の生活を支えている社会資源の仕組み、施設の役割や活動の特徴を知る。さらに、実習を通して、地域包括ケアシステムにおける自助・互助・共助・公助の重要性について考えることができることを目指した。

・実習は、学生2名が1組になり5日間臨地に赴き、1人3施設を体験できるよう構築した。地域包括ケアシステムでの各ライフサイクルに応じた施設や機関を選択し、医療系の施設として訪問看護ステーションと訪問診療のどちらかを必ず体験できるように配置した。福祉関連の施設・機関として、子育て支援拠点・障がい者福祉施設・老人福祉センター・デイサービス・社会福祉協議会に依頼した。

・取り組みについての所感(地域・在宅看護論専任教員:原田典子/峰尾敦子)

本実習は、全7機関30施設で構成しているが、事前に全施設に出向き多くの時間を使い細かい調整を行った。実習体験が少ない1年生が、2人で協力し合いながら教員の同行が無い中、3施設を巡ることへの若干の不安もあった。

しかし、詳細な打合せにより、学生の主体性や責任ある行動の遂行に繋がっており、施設の方々からは温かくまた学生を尊重してご指導いただいたことに感謝の念に堪えない。健康な高齢者が集う老人福祉センターでは、生き生きとして活発な方々から親和的に活動の様子を語っていただき自助活動の重要性を実感していた。また高齢者仲間との交流が深められ互助の役割も理解できた。そして重度な障害を持ち施設に通っておられる方に初めて接した学生は、スタッフの方と自然にレクリエーションを楽しんでいる姿に心が洗われる体験だったと感動を覚え、今後の看護への学習の後押しになったと語っていた。今までは良く認識できていなかったが、地域には様々な健康を守るための仕組みや、安心して幸せに暮らしていけるよう支えている社会資源があることを学ぶことができた。これらの学びが、2・3年生の今後の学習にどう繋がられるか再考していきたい。

テーマ：❀ 卒業生が学校へ

カテゴリー：その他

【教育理念】

七尾看護専門学校は、保健・医療・福祉施設や地域において、健康の担い手として活躍できる質の高い看護師を育成することを責務としている。

【学校概要】

学校名：七尾看護専門学校
所在地：石川県七尾市なぎの浦 156 番地
課程名：3年課程
1学年定員：40名
修業年限：3年



★卒業生が教員に！

当校の卒業生であり、現在は教員として働く森川先生にインタビューしました。

・母校で教員になろうと思った理由は？

「お世話になった学校に尽くしたい、恩返しをしたいと思い、母校の教員になりました。他校は一切考えなかったです。教員となって大変なこともあります。充実しています。学生に気づかされ、育ててもらっていると思っています。卒業生が多く来校してくれるのは、学校が心の支えになっているからだと思います。」

・当時の同級生が当校の非常勤講師として授業に来校してくれていますが、どうですか？

「学生時代には想像できなかったことで、不思議な感じですが、共に後輩の指導に携わることができて嬉しく思います。」



教員 森川

★卒業生が国試対策に参加し、後輩に勉強を教える！

卒業生にコメントを頂きました



「国家試験には、幅広い学習が必要であり、自分も一緒に改めて基礎を勉強できる機会と考えて参加しました。将来は【一緒に看護師として働く仲間】と思い、参加しました。」

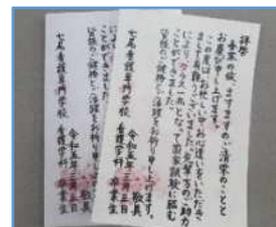


★国家試験前に、卒業生から激励の差し入れを頂くことも！

キットカット（きつと勝つ）など、差し入れをしていただいた先輩に、卒業式の日が届くようにお礼の葉書を書いています。

文章は卒業生全員で考え、宛名は手書きです。

受け取った先輩からは、来校時に「葉書が届きました。私のところにまでありがとうございます。」とお礼の言葉もいただきます。



★来校した卒業生は、在校生に看護師としてのやりがいや、困った時の対応、学生への暖かいエールを送ってくれます！

また卒業生からは、『学校に行くことは、頼りがいのある看護師の先輩である先生方に、困ったり、迷ったりしたことや愚痴を聞いてもらい、明日からのエネルギーをもらっています！』と嬉しい言葉をもらいます。

卒業生来校





テーマ：地域を知る「地域・在宅看護概論Ⅰ」 ～ 中川区役所とのコラボレーションによる授業 ～

カテゴリー：④地域・多職種等

1 学校概要：えきさき看護専門学校 〒454-0854 愛知県名古屋市中川区松年町 4-48 3年課程 1学年定員数 40名 修業年限3年

2 内容

1) 科目：地域・在宅看護概論Ⅰ（1単位 15時間） 2) 開講時期：1学年 前期

3) 科目のねらい

：療養の場は病院や在宅、施設など様々な場に拡大し、看護を提供する場も多様化している。ここでは、個人・家族を看護の対象として、健康や暮らしを支援するために生活の基盤である「地域」とは何かを理解する。

4) 授業の様子



中川区のマスコットキャラクターの「ナッピー」です。よろしくね！

中川区役所・区政部地域力推進室の講師より、中川区の成り立ちと区を取り巻く自然環境や文化的・社会的環境について講義を受けました。



いざ、フィールドワーク！



* 戦国武将の前田利家は中川区の出身です。

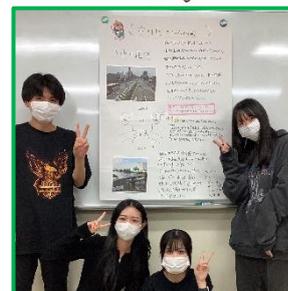


学校の近くには国道1号線、中川運河があります。



フィールドワークでの気づき・学びをグループで模造紙にまとめました。

みんなで協力して発表準備！



各グループで工夫して発表しました。



“特派員”として他グループの発表を聞き、その後自分のグループに戻って学びを伝え合いました。



最後の授業では、地域の区政協力委員さん、民生委員・児童委員さん、保健環境委員さんに学校へお越しいただき、貴重なお話を聞きました。

授業後の学生の学びより…

- ・地域は個人の間ではなく、協力の場である。地域の場に積極的に関わり、参加していきたい。
- ・地域の人たちの大切さを学んだ。感謝の気持ちを忘れずに生活していきたい。
- ・地域に住んでいる人たちの思いやりで、私たちは安心して暮らせているんだと気づいた。
- ・高齢化が進んでいる中で、若者が積極的に地域の活動に参加していく必要があると思った。
- ・私は将来、在宅医療に携わりたいと思っている。地域の特性を理解しながら、居心地がよい自宅での暮らしの手伝いができるようになりたいと思った。



3年前のコロナ禍に中川区役所より「コロナワクチンの接種会場として学校を借りられないか…」と依頼されたことをきっかけに区役所とのご縁が始まりました。

“中川区愛” たっぴりの講師の授業は、学生に「中川区をもっと知りたい！」と思わせる楽しい授業となりました。

3年次に開講する「災害看護」では、再び中川区の協力を得て、地域防災について学びます。

地縁を大切にする看護師に育ててほしいと願っています。

(科目担当教員)



テーマ：「教える・教わる立場から、ともに学ぶ効果」

カテゴリー：③教育方法（授業・演習）

1. 学校概要：学校名：尾北看護専門学校 所在地：愛知県丹羽郡大口町下小口六丁目122番地2
課程名：3年課程 | 学年定員数：40名 就業年限：3年

【内容】

本校では、授業の一環として「教える立場・教わる立場」の体験を教育内容に組み込んだ。2年生の科目「指導技術」1年生は「日常生活援助技術Ⅱ（食べる・トイレに行く）」の科目をコラボレーションした。技術試験項目である「おむつ交換」をメインに、おむつ交換と陰部洗浄を2年生が1年生に教えるという共同学習を行っています。2年生は「教える立場」となり、指導技法として「指導案」を計画した。授業進度を参考に、「できること」「想起すること」「知識として教えること」「技術として定着させること」に分けて授業デザインを考えた。1年生は「教わる立場」として、事前に2年生から課せられた事前学習に取り組み、演習当日は先輩とペアとなり、新たな知識として、おむつ装着体験や適切な湯温の調整、陰部洗浄とおむつ交換の一連の流れを学び、既習の知識として体位変換、寝具、寝衣の取り扱いを想起した。声掛けや報告、言葉遣いや聞く姿勢など「学ぶ」態度や姿勢を教わっていた。

2023年度からは2学年合同で活動できる時間を増やし、各科目、授業としてコラボレーションする時間が4時間×2回（8時間）と、意図的に自己学習時間を2学年合わせて、授業外でも関りが持てるように時間割を工夫した。2年生の指導技術を4月から開始し、1年生に教える科目を前期「日常生活援助技術Ⅰ（環境）」「日常生活援助技術（清潔）」の2科目とした。指導ガイドラインにある「看護師教育の技術項目と到達度」の各項目は、技術試験項目以外はピア評価（学生間で責任を持ち評価する）を行っている。特に技術試験項目「臥床患者のシーツ交換」「更衣」「バイタルサイン測定」「おむつ交換」は先輩に評価を受けることにし、2年生は、1年生で修得すべき技術科目すべてに関われるようにした。

* 「ともに学ぶ」効果 成長 Word

1年生

- ① 先輩への言葉遣い
- ② 先輩との日程調整
- ③ 技術練習時間の増大、質の向上
- ④ 技術試験の合格率の向上
- ⑤ 立場をわきまえた振る舞い
- ⑥ 感謝の言葉を先輩に伝える

相互成長

2年生

- ① 後輩への声掛け
- ② 対象を把握し個別に対応
- ③ 自分都合を優先させない姿勢
- ④ 技術指導のための技術構築
- ⑤ 手本となる立ち振る舞い
- ⑥ ねぎらいの言葉をかける



真剣な眼差しで見つめる先輩の技術



先輩・後輩でリフレクション活動

テーマ いのちを育み、学校生活に癒しと活気をもたらすサークル活動

カテゴリー：⑤その他（サークル活動）

学校概要 京都保健衛生専門学校 看護学科三年課程 京都市上京区千本通竹屋町東入主税町 910 3年課程 1学年 40名定員 修業年限3年



本校は、看護学科・臨床検査学科・臨床工学技士専攻科を持つ医療系専門学校です。2009年から学生の主体性を育み、学科を超えた学生間交流を図ることを目的に、学生が企画したサークル活動に対して活動費の助成や場の提供など学校全体で支援しています。

コロナ禍では、感染防止のため学科間や学年間の交流を制限せざるを得ませんでした。コロナ前は、検査学科の学生を中心に玄関エントランスにある水槽を管理し魚が生活していました。しかし関わっていた学生が卒業し、サークル活動を自粛する中でいつの間にか魚はいなくなり、水槽は真っ黒に汚れていきました。検査学科の教員が定期的に水槽の清掃をするのが精一杯の状態でした。そのような中、2022年1月に「**生き物がかえるなら、キレイな学校の玄関にしたい!**」と海の生物の飼育や調査経験のある看護学科の1年生(現在は2年生)が声をあげました。汚れた水槽の清掃からはじめ、水槽を装飾し今や色とりどりのかわいい魚やエビが生活しています。



黒い水槽が気
になっていた

Welcome!

声をあげてくれ
た仲間の行動
に感動!



気分転換が
でき楽しい!

生き物を育むことは勉
強にもなり楽しそう



同じ気持ちを持っていたり、お手伝いをする中で楽しいと実感できたり、仲間の行動力に魅了され仲間が増え、現在は7名が「**アクアサークル**」として活動しています。活動を通して絆も深まり、チームワークもよくなっています。活動をしていると清掃の方や各学科の教員、事務職員、そしてなにより学生達が足を止め「何やっているんですか?」「癒される～」と声をかけてくれ、他学科の学生と話せるようになってきました。また看護学科の1年生からも興味があるとの反応が返ってきており、他学科や他学年の学生、教職員との交流のきっかけになっています。そして、エントランスがきれいになったことから、「エントランスの椅子も変えたほうがいいのか?」という声も上がっており、今後学校全体の環境改善にもつながっていくのではないかと期待が膨らみます。このような学生発信の主体的な活動は、多くの人のこころを動かし、学校全体を動かす原動力になっています。



癒される～



みんなの笑顔がうれしい

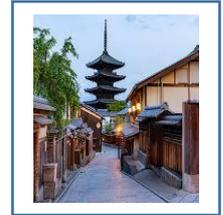


季節に応じた展示を
企画して
いきます!!

1) テーマ : 「 京都文化の探求 」

2) カテゴリー : ③ 教育方法

3) 学校概要 : 京都保健衛生専門学校 京都市上京区千本通竹屋町東入主税町 910
課程 : 3年課程 1学年定員数 : 40名 修業年限 : 3年



本校は京都市内に位置し、学校の徒歩圏内には世界遺産である二条城がある。京都は、多くの文化遺産が存在し、歴史深い世界的な観光地である。学生の多くは、京都で生まれ育っている。そんな京都の魅力を知り、もっと京都の文化や暮らしを学んで欲しいという思いで、新カリキュラムより「京都文化の探求」という科目を設定した。履修は1年次前期であり、1単位、15時間、8回の講義である。授業は、京都の歴史に詳しい外部講師をお願いしている。

教室では、「私が考える京都らしさとは？」をテーマに、グループワークを行ったり、先生から「京都のしきたり」、「京都の食文化」「祇園祭の歴史」「京町屋の特徴」「東男に京女」「鬼門と清明神社」「大内裏の不思議」他、京都の文化や歴史について学んでいる。

学外学習では、「自身で見る京都とその文化」を目的に、グループ毎にテーマを決めて、学校から地域に出向き、京都文化を探求している。今年度のテーマは、「千本出水の七不思議」「平安時代のオフィス街探訪」「京都和菓子のルーツ」「雨乞いの祈りと神泉苑」などであった。



- ・ 八省院とも呼ばれる政朝の中心
- ・ 天皇の即位式、国家の重要な儀式が行われる
- ・ 外交の場

学外学習後見学した史跡や神社について更に、文献を活用して知識を深め、それらを資料にまとめ教室でグループ毎に報告会を実施しました。



報告会では、写真・インタビュー・文献学習他まとめた物を発表しました。昔の言い伝えは、言葉だけでは難しいので観劇にしたり、クイズ形式で出題したりと視聴者がわかりやすい工夫をしていました。京都の文化をより広く深く学ぶ機会となりました。



宴の松原跡

地域の方のお話を聞く



講義を終えて、学生の声

- ・ 毎日歩いている近くに、こんなに京都の文化がある事を知った。
- ・ 詳しく歴史や文化について調べる事で、もっと京都が好きになった。誰かに京都の魅力を話したくなった。

教員の思い、願い

本校の学生の多くは京都市内の医療施設に就職しています。今後も地域の文化や活動に関心をもち、人々の暮らしとともに、看護の道を歩んでいって欲しいと願っています。

- 1) テーマ：「地域の方と山登り～八木町の歴史を知ろう!!」
 2) カテゴリー：連携
 3) 学校概要：①学校名：京都中部総合医療センター看護専門学校
 ②所在地：京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1
 ③課程名：3年課程 1学年 40名 就業年限 3年



【ねらい】

本校は「地域で暮らす人々の生活や文化、価値を理解し慈しむ豊かな感性を持ち、常に誠実に対象に寄り添い信頼される」を教育目標とし様々な地域交流をおこなっている。

学生達は核家族が多く高齢者と接する機会が減少し「地域で暮らす高齢者」というイメージができにくいことや他府県や地元以外からの入学生も多く地域の歴史や特産物、観光地などを知らない学生が大半である。このような学生の状況をふまえて入学して間もない4月に地域の方から八木城の歴史プレゼンテーションを受け、地域の方と共に八木城登山、地域散策をおこなっている。地域の良さや歴史を知ること、地域で暮らす高齢者とコミュニケーションをとりながら日々の暮らしや価値観を知り「地域と人に興味関心を寄せる」第一歩となることを期待している。この体験は地域・在宅看護論、老年看護学、基礎看護学につなげている。

★スケジュール

時間	内容
10:00～10:30	春日神社前集合
10:30～11:30	八木城登山
11:30～13:00	下山して昼食 春日神社
13:00～13:30	春日神社 宮司さんのお話
13:30～15:30	龍興寺・東雲寺めぐり 八木駅解散



学生の声

- 頂上で見た景色はとても綺麗でまた来たいと思った。登山のことを話題にして地域の方と話をしたい。
- 自然が多くてのどかな町で地域の方が優しくもっと好きになりました。もっとこの町を知りたい。
- 見渡す限り田んぼ、畑だけどそれも八木の魅力だと感じた。田舎だからこそ京都中部総合医療センターが大きく見え地域の宝だと感じた。看護師になって働きたい。
- 神社に地域の花が植えられていました。今日見て経験できたこととても嬉しい気持ちです。
- 地域のことや色々な話をしてもらいこのような優しい方を看護させていただくことを嬉しく思った
- クラスのみんなども楽しく登山ができて仲が深まりました。



地域の方の声

- 「元気をもらった！」
- 「今日は楽しかった！」
- 「交流会すごく楽しみにしてるよ」



教員も一緒に登山！
「楽しい～」

テーマ

「地域の一員としての看護専門学校」

カテゴリー：④連携（地域）

学校概要

学校名：京都中部総合医療センター看護専門

所在地：京都府南丹市八木町南広瀬上野 3 番地 1

課程名：3 年課程

1 学年定員数：40 名

就業年限：3 年



学校理念

幅広い看護実践ができる専門的知識・技術で
人々の健康のために貢献できる人材を育成

◎ 地域のためにできること

当校は京都府南丹医療圏の地域の住民の生命健康を守る最終拠点病院を設置母体とする看護専門学校である。地域の一員として地域の方々との交流だけに留まらず、もっと積極的にできることを模索し続けている。

◎ 地域の人材は地域で

当校ではありがたい事に入学時から卒業まで行われる看護実習のほとんどを、『地域の人材は地域で育てる』という理解のもと地域の施設でお世話になっており、小児看護学実習では複数の保育園、幼稚園、こども園で実習をさせていただいている。施設を訪問した際に、『子どもの救急蘇生法研修』を保育園児の昼寝時間に合わせて、園のスタッフ全員が受講できるように複数回研修会を開催してくれるようなシステムがあれば・・・との悩みを聞いた。

◎ 専門性を発揮した教員の校外活動

看護専門学校にあるシミュレーターを活用し、教員が保育園に出向き講師となり保育園・幼稚園スタッフを対象に子どもの救急蘇生法研修の開催を試みて 2 年目となる。



◎ 今後の課題

私たち看護専門学校の特性を地域のために発揮がしたい！このような活動を続ける事で、学校が地域に根を張って地域との互助が成立し地域力を高めることができる。今後も新たな看護学校、教員の活動を模索して行きたい。

テーマ：未来輝くキラキラ看護師育成プロジェクト～実習指導者と共に～



カテゴリー：④連携

入学時から卒業までの学生時代をファーストキャリアであるレベル0と位置づけ、警和会看護部と協働・連携したキャリア支援を行うことで、将来警和会の誇りをもった看護職になるためのキラキラ輝く目的意識・職業意識を醸成し、自らが主体的にキャリアデザインを描くことができることを目指す

【学校概要】

大阪警察病院看護専門学校

大阪市阿倍野区松崎町 1-2-33

3年課程 1学年定員 80名 就業年限 3年



実習開始時には、病棟ではなく学生の待機場所に指導者が来て下さり、落ち着いた環境の中で本日の学習目標と計画の確認・指導を受けています。

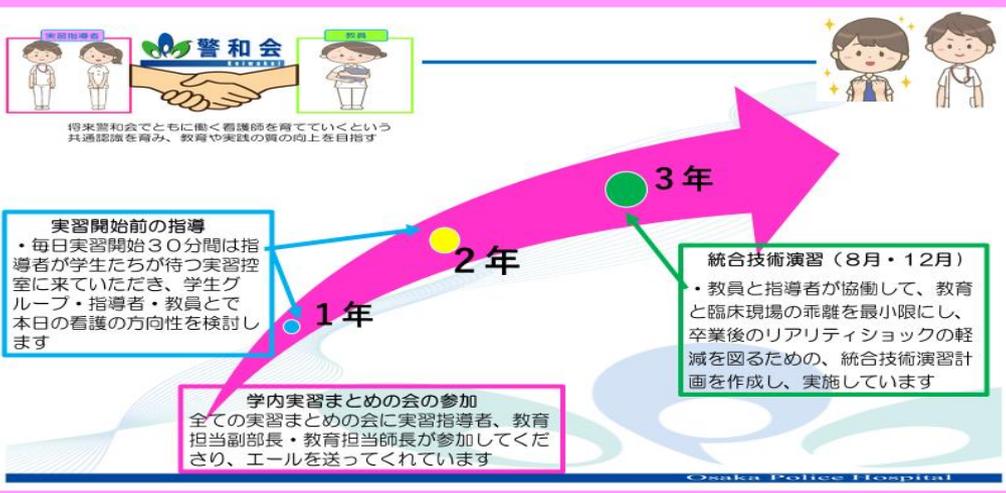


看護専門学校キャリアデザイン

～キラキラ輝き続ける未来看護師を目指して！～

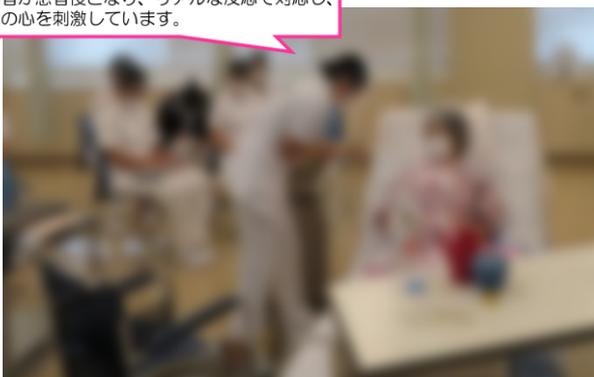


忙しい学校長に代わり僕、学校長代理が見守ります。



注目!

指導者が患者役となり、リアルな反応で対応し、学生の心を刺激しています。



協働による統合技術演習 3年生アンケート結果

【対象】3年生90名 83名回収

実習指導者が参加する統合技術演習を体験し、どのような学びがありましたか

- 先輩看護師への相談の重要性
- 安全・安楽な環境の重要性
- 予測と対策の重要性
- 臨地での看護の実践

統合技術演習は、臨床に出てからの看護実践にどのように活かすことができますか



テーマ「“まつかん”はイケてる卒業生がいっぱいです！！」

カテゴリー⑤その他

学校名:パナソニック健康保険組合立 松下看護専門学校

所在地:大阪府守口市早苗町 7 番10号

課程:3年課程 1学年定員数 40名 就業年限:3年

当校では2023年4月に開校 50 周年を迎えることができました。その間に約 1500 人の卒業生を輩出しています。卒業生の多くは国内にとどまらず世界でも医療・看護の第一線で活躍する一方、当校の色々な取り組みに参画、在校生への支援をいただいています。卒業生が、「母校に戻って何かできないか?」「何かあれば協力しますよ～」と声をかけてくれることが、わたくしども教務としても大変うれしく、励みとなっています。今回、卒業生の方の取り組みを一部ご紹介させていただきながら、当校の学校自慢をさせていただきます。

① 看護学校での学び方をレクチャー

学生時代から解剖生理学のスペシャリストであった卒業生の方が、いかに解剖生理学が大切な科目であるのか、勉強方法だけでなく、学生の苦手分野の解説・質問に答えてくれます。身近な先輩の言葉は、何よりも学生の心に届いて、〇〇塾とよばれて、大好評です。

② 広報活動のサポート



当校の広報活動は学生が企画・運営しているものがほとんどです。卒業生も学生時代の経験を大いに発揮してサポートをしてくださっています。動画の撮影や編集、オープンキャンパスの開催支援を担ってくれています。学生参画の広報活動の“やり方”だけではない“まつかんイズム”を伝えてくださっています。

③ 助産師によるランチョンセミナー

現役助産師の卒業生の方が、お昼休憩中の学生とランチをしながら、進路のことや、自分の身体のことなど、助産師だから相談にのれる“お話会”を開催してくださっています。

④ 看護技術演習サポート

看護技術の演習の際、常に卒業生が協力をしてくれています。多忙の中多くの方が集まってくださり、驚きと感謝があふれます。プロの技を見せてくれたり、患者役となり適切な助言をくれたり、学生にとって素敵なロールモデルになっています。

⑤ 小児看護学での演習サポート



卒業生が自分のお子さんを連れてきてくれて、子どもと関わる機会を作ってくれています。学生さんは発達を考えた関わりを準備して臨むのですが、赤ちゃんから幼児期の子どもちゃんに癒される場でもあります。

⑥ 学校ノベルティーグッズのイラスト作成



当校のイメージキャラクターであるイラスト(左)は、卒業生の方のデザインです。広報のノベルティーグッズにも使っています。学生相談室のポスターのウサギのイラストには学生だけでなく教員も優しい気持ちになります。個々の力をいろいろな形で発揮してくださっています。

☆以上のように、様々な形で、卒業生の方に支えてもらっています。卒業後も、このようなつながりをもてることに感謝をして、今後も在校生だけでなく卒業生や近隣地域に愛される学校をめざして精進していきたいです。



テーマ:学校での出張販売

カテゴリー:④連携(地域・多職種連携)

学校概要:堺看護専門学校 看護第2学科

大阪府堺市北区新金岡町5丁10番1号 2年課程(定時制) 1学年定員数:40名 就業年限:3年

<なごみ福祉会の出張販売は大盛況です!>

昨年10月より月に1回、なごみ福祉会就労継続支援B型事業所「You・Iハウス」の職員と通所者の方が、昼休みの時間を活用して、学校の玄関ホールで出張販売を行っています。販売しているものは、焼き菓子・漬物など、障がいのある方々が社会参加や就労という目的をもって制作した『授産製品』です。毎回、昼休みの途中には完売する時があるほどの大盛況です。



経緯	「You・Iハウス」は精神看護学の実習施設のひとつです。実習では、学生も通所者の方と一緒に、焼き菓子や漬物を作りながら、地域の中での事業所の役割を学んでいます。コロナ禍で販売先が縮小し、新たな販売先のひとつとして学校に依頼があり、出張販売が開始になりました。
目的	販売による営利目的だけでなく、「精神障害を有する方の社会参加の理解と交流・支援ができる」という目的で始めました。
学生の取組み	実習に行っている3年生を中心に、玄関ホールにポスターを作成し、どのようなものが販売されるのか、販売日はいつなのかを宣伝してもらいました。また、当日は2~3名の学生がボランティアとして販売のお手伝いを、通所者の方と相談しながら行っています。
販売日の様子	本校は看護第1学科(3年課程)の学生もいますので、合計すると240人ほどの学生が在籍しています。販売日には購入に列を作ることも多くみられます。最近では小銭を持たない学生のために電子マネーも導入してくれました。



完売になったらうれしいし、作り甲斐もある。いっぱい買ってくれるので、びっくりする。学生を見てると希望に満ち溢れていて、パワーを感じる。(通所者の方)

販売日が楽しみです。自分が漬けた大根が売れるのはうれしい。(学生)



学生さんと関わってから、笑顔が増え元気になっていく通所者の方もいます。自分の作ったものが売れたり、褒められたりすることで、社会で役に立っている、人に必要とされているという実感を得る機会になり、地域に出ることの大切さを改めて実感しています。(なごみ福祉会 理事長)

この販売を通して、『地域共生社会』の理解と貢献につながればと思っています。今後は地域住民にも利用してもらえよう学校を開放し、地域と一緒に学ぶ機会を増やしていきたいです。

【テーマ】 はりかんラウンジ文庫

【カテゴリ】 ⑤その他（教育理念につなぐ）

【学校概要】 播磨内陸医務事業組合立 播磨看護専門学校

兵庫県加東市家原 812-1 3年課程 1学年 35人 修業年限 3年

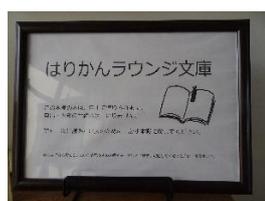
本校は、兵庫県北播磨地域にあり「日本のへそ」をもつ西脇市を中心に加西市、加東市、多可町の3市1町が共同で設置した公立の学校である。地域医療を担う看護師を育成するために、昭和50年2年課程として開校した。その後、昭和54年には3年課程に変更し、今年は45期生を迎えることができた。

【教育理念】

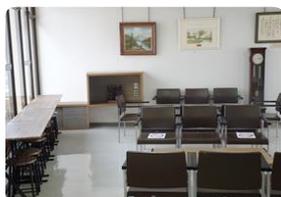
地域の保健・医療・福祉の担い手として、人間の生命を尊重する**倫理観と豊かな人間性**を培うことを基本に、看護のニーズに対応する、高い看護の専門的知識に裏付けられた問題可決能力と実践力を育成すると、さらに保健医療福祉チームの一員として協働し広く人々の健康管理に貢献し、また看護専門職業人としての探究する姿勢を培うことを目的とする。……



学生像を抽出し、本を読む習慣をつけ、地域のことへの関心を継続できる方法を考えた結果、机と椅子しかなかった「ラウンジ」に「はりかんラウンジ文庫」がオープンした。



図書室と違って、手続き不要でジャンルは多様で絵本、自己啓発本、小説、はたらく細胞シリーズなど50冊以上、3市1町の広報誌も毎月更新されています。ちょっと立ち寄って手にしたくなるものがたくさんあります。市町の広報誌は、変化する地域の活動を知るのに有効です。昼休みや放課後に一息つきながら、友だちと集まる憩いの場にもなっています。本は、寄付されたものを教務事務が随時更新しています。



本を読む習慣をつけ感じたことを話題にし、考え方や捉え方の違いを日常から感じ始めました。いろんな感じ方に触れ感性が磨かれることを願っています。教員ばかりでなく事務とも協働し学生を育てています。

1) テーマ「宝塚市民と共にある学校を目指して」

2) ④（地域・多職種連携）

3) 学校名：宝塚市立看護専門学校

所在地：宝塚市小浜 4 丁目 5 番 5 号

課程名：3 年課程 | 学年定員数：40 名 修業年限：3 年間

本校は、宝塚市を設置主体とし、宝塚市が求める地域社会に貢献できる看護師育成を目的に 1995 年に設立された 3 年課程の看護専門学校である。

教育理念は、宝塚市のすべての市民が健康で安心して暮らせる、人にやさしいまちづくりに貢献する質の高い看護師育成であり、教育目的は、看護師として必要な専門的知識、技術、態度を身につけ、その応用能力と豊かな人間性を養い、地域社会に貢献し得る有能な人材を育成することである。

2022 年（令和 4 年）年度からの新カリキュラムは、社会の変化に応えるべく地域のニーズや学校の教育理念を反映した特徴あるカリキュラムを構築し、学校が所在する地域を理解し、地域のニーズに応え貢献できる人材育成を目指した内容である。

そこで今回、社会の変化に対応し得る能力を兼ね備え、宝塚市が求める地域社会に貢献できる看護師育成という目的実現に向けた自校の特色ある取り組みを紹介したい。

1) 地域社会に貢献できる人材育成について

本校の設置主体である宝塚市は、安全・安心のまちづくりは元より、人にやさしく、誰しものが住み続けたいと思うまちづくりに取り組んでいる。その宝塚市の取り組みを、本校のカリキュラムに反映し宝塚市に暮らす方々の健康を守り、地域に貢献できるための科目を立ち上げた。

基礎分野：宝塚学Ⅰ 市内のボランティア活動や宝塚市の理解

専門基礎分野：宝塚学Ⅱ 宝塚市の課題について考える

専門分野：専門職連携 甲子園大学との多職種連携教育

これらの科目については、2 年にわたる外部との調整や準備期間を経て運用に至ることができた。



特に、「宝塚学」は、学校所在地である宝塚市を科目名称に用い、学生が地域を意識した行動ができることを目指す教育内容とした。導入として、宝塚市についての理解を深めるために、本市職員より宝塚市の地理、文化、産業、観光について講義をお願いし、聴講した中で更に興味関心を持った分野をグループ毎で選択、直接現地に出向き宝塚市の理解を深める。そしてさらに、「宝塚を知ろうプロジェクト」として、兵庫県内看護師養成所 4 校をオンラインで繋ぎ、各校それぞれの学校所在地及び各校の特徴について紹介を行う機会をもつことで、学生の視野を広げる機会とした。

またこの授業科目では、学生が地域における様々なボランティア活動に参加することで、地域について理解を深め、地域に貢献する経験やそこで暮らす人々と交流をもつ機会も創った。

これらの取り組みは、学生が主体的に地域に対する理解を深める機会となっていくと考える。

2) 宝塚市内の関係機関との連携

更に高齢社会や地域のニーズに応えるために、保健・医療・福祉と連携する力がますます重要になると考え、多職種連携教育に向けた取り組みとして、地域に開かれた学校として宝塚市内の大学と多職種連携教育を実践している。多職種連携の学習を深めるための取り組みについては大学と協議をしながら、各専門職者の役割や事例検討など進めており、これらの学びが今後、地域の人々と共にあり、更に地域と共に発展していけることを実感できるような学校づくりに努力している。

テーマ「学ぼう会」～教育の質向上のためのとりくみ

カテゴリー：⑤その他（人材育成）

1. 学校概要：学校名：田北看護専門学校 所在地：奈良県大和郡山市城南町 3-25 課程名：3 年課程
1 学年定員数：40 名 修業年限：3 年

2. 内容

教員の質の向上のための学習会である「学ぼう会」の取り組みについて報告する。「学ぼう会」は、本校の学校評価の結果で、学校全体で解決すべき課題はもちろん、個人で努力する課題もあることから発足した。本校の教職員の倫理指針の一つである「教職員は、常に継続学習による能力の維持・開発に努める」をもとに、教師力を高め倫理的な教育が実践できるよう 2013 年から、「教師教育」という名称で学習会をスタートさせた。看護実践能力について議論したり、ルーブリック評価について学習を深めたり、教員全体で共通理解すべき成果物を作成してきた。また、学生指導で生じる困難な事例、実習記録のコメントの書き方、授業での悩みなど、テーマは自由に提案でき、その内容は多岐にわたっている。試行錯誤し改善を求める話し合いの過程は、解決策の明確化だけでなく、互いの教育観や看護観にも触れる機会になり、それが自身をコーチングし自己研鑽への意欲や探求心向上につながっている。2022 年度の新カリキュラム変更の討議のため一時中断していた学習会を新人教員も増えたことを機に「学ぼう会」と改称し令和 5 年 1 月から再開した。まずは実習環境の改善にむけて各領域ごとに学生に行っていたアンケート調査内容の統一化をはかるため、第 1・2 回のテーマは「臨地実習における実習環境の評価について」とし、3 回目は新たなテーマを募った結果「臨床判断シートの指導方法について」に決定した。

表 1：「学ぼう会」の実際の経過

回	日	内容	次回までにすること
第 1 回	1/6 (金)	各領域で現在行っている実習評価の現状の理解	参考資料をもとに、自校に必要な項目をGoogleフォームで作成したアンケートに回答する。その結果を集計する。
第 2 回	3/14 (火)	アンケート結果をもとに、項目の選定、項目の修正などの話し合いと作成	次回のテーマの募集と決定
第 3 回	5/2 (火)	実習指導における実際の意見を出し合い、指導の困難さの共通認識を行う。	実践看護学 I・IIで行っている臨床判断の授業内容の理解 (次回のテーマ)

3. 「学ぼう会」のルール・進行方法

- 1) テーマをつくる。希望が多く優先順位の高い内容を決定する。
- 2) テーマについての情報収集は各個人で行う。(参考資料集め)
- 3) 必要な資料はGoogleドライブ内でアップロードを行い、パソコン画面で共有しながら進行していく。
- 4) 会に費やす時間は 1 時間程度とする。
- 5) 書記は議事録 (Googleドライブで共有) に記入し、意見をタイムリーに記録しながらすすめていく。
- 6) 次回の日程を決め終了する。目安は 2 か月に 1 回程度の開催 (5 回/年)

4. 「学ぼう会」に対する教員の感想

テーマが次々に決定し、先生方の学びたい思いが伝わり、「頑張らないと」と刺激を受ける。「同僚性が教育の質を高める」といわれていることを実感させてくれる。先生達の意見を聞く事で、視野や知識が広がっていく様に思う。なんでも発言し討議できる関係性が有難く、貴重な時間である。まだ教員になり間がないが、このような会があるので、悩まず仕事ができる。終了後、心がもやもやすることもありますが、それは自分自身を振り返り自覚し教育観が明確になっていくのだと感じる。

テーマ：「互いの特徴を活かして地域貢献でコラボ！」～サッカーJ3 奈良クラブとの連携～

カテゴリー：④連携（地域）

学校名：ハートランドしぎさん看護専門学校

所在地：奈良県生駒郡三郷町勢野北4丁目13番1号

課程：3年課程 1学年定員数40名 修業年限3年

内容：日本プロサッカーリーグに加盟する【奈良クラブ】は現在J3リーグ（Jリーグの3部リーグ）に所属しています。2023年1月に、本校に隣接するグラウンドが整備され、奈良クラブの練習グラウンドになることが決定しました。また、同年2月には本校がある【奈良県生駒郡三郷町】が奈良クラブのホームタウンとなりました。そのことを受けて、本校の教職員・学生も奈良クラブの三郷町民サポーターの一員となり、応援することになりました。

そのような中、奈良クラブより「地域貢献の一環で、本校とコラボレーションしていきたい」と申し出があり、本校もディプロマポリシーに【多職種と連携・協働して地域の人々の健康に貢献する力を身につける。】と掲げていることから、教科外活動の位置づけでこの申し出を受けることにしました（本校では、教科外活動での学びも大切にしています！）。

このコラボレーションはまだまだ始まったばかりなので、活動実績は少ないですが、今までの取り組みと今後の予定をご紹介します！

今までの取り組み

サッカー選手との
ふれあいまち!

ミニサッカー教室&練習見学会
スポーツにおけるコミュニケーションスキルを学ぼう!!
2023.05.24 実施

いい天气で、本校の
Tシャツが映えます!

トップチームレギュラー
鈴木大誠選手に
情報収集(♡)♪
2023.07.06 実施

今後の取り組み...



1. ホームスタジアムでの救護ボランティア
2. キッズルームのおもちゃ製作
3. スタジアム向上委員会への参加

月
日
曜
日
直

テーマ：－先輩教えて！！バイタルサインのこと－

カテゴリ：③教育方法（演習）

学校概要：学校名：和歌山県立高等看護学院 所在地：和歌山県紀の川市西野山 505 番 1

課程名：3年課程 1学年定員数：50名 修業年限：3年

内容：【学び合い】

毎年7月、1年生のバイタルサイン演習が実施される。この時の先生は3年生だ。血圧・脈拍測定、心音・呼吸音聴取などの技術やその基となる知識やコミュニケーションを1年生に伝えていく。

1年生・3年生は、それぞれ教科担当教員により分けられたグループ（4～5人）となっている。まずは、お互いペアとなるグループを探し、顔を知ることから始まる。ここで発揮されるのは3年生のリーダーシップやコミュニケーション能力だ。双方緊張の中で3年生の声が聞こえる。ペアが分かったチームは、それぞれぎこちなく挨拶し、動き始める。次に始めないといけないのは、基礎演習室での看護実践本番（ベッド上に寝ている患者Aさんの状態観察を行う）までの時間をどう使うかだ。まず何を確認しようか。誰が教えるのか。教えるペアはどうするか。「教えることが少し苦手。だけど、体は貸す！」と積極的に患者役割をとる先輩先生もいれば、決して急かさず丁寧にやさしく教える役割をとる先輩先生もいる。自分がかつ力を活かせる場所で、またそのことを3年生同士が認め合った中で協同し、チーム力を発揮する。どの先輩先生の顔も生き活きしている。1年生の「できたー」「分かった！」「先輩すごい」の反応に、更に嬉しそうで、満足気な先輩先生の笑顔が生まれる。尊敬、憧れ、目標、喜び、手ごたえ、自分への自信等々様々なものが交差していく。だんだんと教室の音が騒音ようになってくる。動きも距離も表情も変化する中、やはり緊張しながら真剣なまなざしで1年生は学んでいく。先輩先生の要求が徐々に高くなっていく。「根拠は？」どこかで聞いたようなセリフが聞こえてくる（笑）。1年生からは、「先生に教えてもらうよりよく分かった」の感想が多く聞かれる。確かにスキルはこれを機会にグッと上がる。学生の日、学生の習得したい気持ち、学生の不安・・・きっと先輩先生は最後まで寄り添い関わっているのだろう。

【憧れの先輩】

一通りの演習が済むと、各ペアグループでは個別の学習会が行われたり、授業や技術試験・テストの乗り切り方・実習等の情報交換が行われる。「解剖生理学で習った酸塩基平衡が分からないのですが・・・」の声で、先輩先生の講義が始まる。最後は拍手がおこった。（実は、事前に「・・・」教えて欲しいみただよ。の情報は流しているが・・・）「人に教えるって難しい。皆でめちゃくちゃ勉強しなおした」と胸を撫でおろしながら先輩先生達の達成感・充実感が溢れ出ている。

これをきっかけに声をかけることができる先輩、気になる後輩ができ、互いに関係を深めているようだ。卒業式には先輩先生に花束が渡される光景も見られる。

【時を超えて繋がる学び】

令和5年度、「またあれするんですね」の声が3年生から聞こえる。1年生だった頃に先輩先生に教えてもらった記憶は強く残り、今度は自分たちが人のためにと自然と動きだし、時を超えて学びが繋がっていく。この取り組みは、学年を超えたピアによる学習効果をねらいとし、平成27年度から開始した。コロナ禍にあっても形を変えて継続し、当学の教育として定着してきた感がある。



年度は違っても、3年生はテキストを持ちサポートが定番スタイル？



先輩と楽しくお話できた。